

705-6852N0-03

Godox

TT685^{II} (N)

迅麗TTLエレクトロニックフラッシュ

合格证
QC PASS



説明のパンフレット

深圳市神牛摄影器材有限公司

住所：深圳市宝安区福海街道塘厦社区福川工业区工場2棟
電話番号：+86-755-29609320 (8062) フォックス：+86-755-25723423
メールアドレス：godox@godox.com

godox.com

Made in China



本製品を使用する前に：

安全に本製品を使用することを確保するため、予め本取扱説明書をよく読んでください。必要な時にすぐに取り出せるよう大切に保管してください。

はじめに

この度は神牛の製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本カメラフラッシュはNikonシリーズカメラに適用し、i-TTL自動発光に対応できます。i-TTLフラッシュを使うことによって、より簡単な撮影体験を獲得でき、光線変化の複雑な条件で自動に正しいフラッシュ露出を獲得でき、撮影が手軽になります。本製品の特徴は主に下記の通りです。

●約GN60(ISO 100,@200mm)、81段階の調光(1/1~1/256)

●Nikon i-TTLに対応可能

i-TTL自動発光をサポートし、ワイヤレ多灯発光システムのマスターユニットまたはスレーブユニットとして利用することができ、撮影はより簡単に便利になります。

●アレイ液晶パネル

直感的に表示して、操作がもっと簡単になります。

●内蔵2.4GHzワイヤレス伝送

送受信一体、超遠距離、創造性無限。

●機能が整っていて、自由に使用できます

手動およびストロボフラッシュモード、高速同期/第2カーテンシャッター同期/フラッシュ露光補償などのE-TTL II機能をサポートします。

●光学的研究、出力安定

高速フラッシュは、出力輝度と色温度が連続的に一致するたびに、光線が均一に分布しています。

●ファームウェアのアップグレード、互換性は心配ありません

元の工場のカメラのペースに従って、ソフトウェアを再アップグレードすることができます。

目次

01	はじめに
01	警告
03	部品名
	本体
	コントロールパネル
	LCD液晶ディスプレイ
	3つのモードで異なるLCD画面表示
	標準付属品
	オプション付属品
	電池の取り外しと取付
06	フラッシュの取り外しと取付
06	電力管理
07	発光モード-- i-TTL自動発光モード
	フラッシュ露出補正
	ハイスピードシンクロ
	第二幕シャッターシンクロ
09	発光モード- M: 手動発光
09	発光モード- RPT: ストロボ発光
11	ワイヤレスフラッシュ撮影: ラジコ (2.4G) 送信
	ワイヤレス設定
	通信チャネル設定
	ワイヤレスID設定
	フリーチャンネル設定スキャン
	全自動ワイヤレスフラッシュ撮影
	M: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影
	RPT: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影
16	他の応用
	同期ジャックトリガー
	オートAFランプ
	バウンスフラッシュ
	ZOOM: フラッシュカバーレレッジを設定します
	電力低下の警告
18	C.Fn: カスタム機能を設定
18	保護機能
20	製品パラメータ
20	ガイド
21	ファームウェアアップグレード
21	互換カメラリスト
21	メンテナンスカタログ

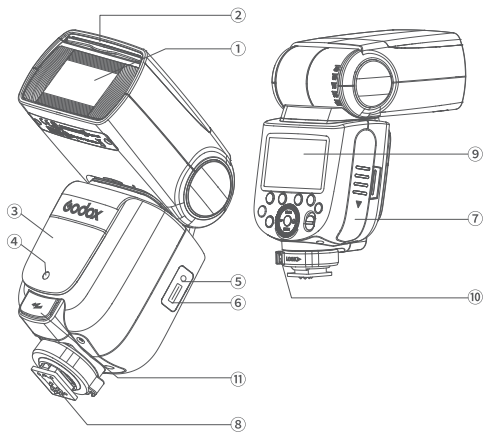
警告

- ⚠ 乾燥したままにしてください。
- ⚠ 製品に障害が発生した場合、当社または許可されたメンテナンス担当者で修理をチェックする必要があります。
- ⚠ 子供を本製品に接触させないでください。
- ⚠ 取り外し、衝突は禁止されています。圧縮したり火に投入したりして、深刻な膨張が発生した場合は、引き続き使用しないでください。50度を超える高温環境に置かないでください。
- ⚠ フラッシュランプの頭を人の目(特に赤ちゃんの目)に向けてフラッシュしないでください。そうでなければ、短時間で視力障害を引き起こす可能性があります。
- ⚠ フラッシュは、化学品、可燃性ガス、または他の特殊な物質の近くで使用しないでください。これらの物質は、特別な場合には、フラッシュの瞬間的な強い光に敏感であり、火災または電磁干渉を引き起こす可能性があります。これらの場合、警告表示に注意してください。
- ⚠ 本製品は防水できませんので、雨の日や湿った環境では防水にご注意ください。
- ⚠ 何か故障が発生した場合は、すぐにフラッシュ電源をオフにしてください。

本取扱説明書で使用されている約束

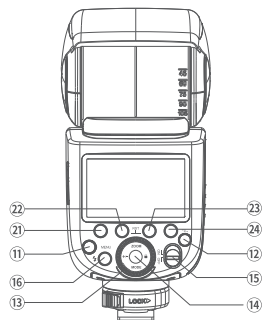
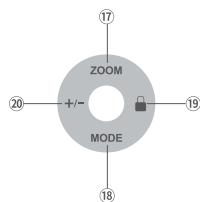
- この使用説明書における操作手順は、カメラおよびフラッシュの電源スイッチがオンされたものとしします。
- 参照ページ番号は(**ページ)で表されます。
- この使用説明書では、以下の警告記号が使用されます:
 - ⚠ この「気をつけて」記号は、撮影問題が発生しないように警告することを表します。
 - 📌 この「注意」記号は補足情報を提供します。

部品名



●本体

- 01.フラッシュヘッド
- 02.内蔵広角乱視ボード
- 03.ワイヤレスセンサー
- 04.補助フォーカスライト
- 05.同期ジャック
- 07.バッテリーコンパートメント
- 06.Type-C USBポート
- 08.ホットシュー
- 09.液晶画面
- 10.固定ホットシューボタン
- 11.外部充電ポート

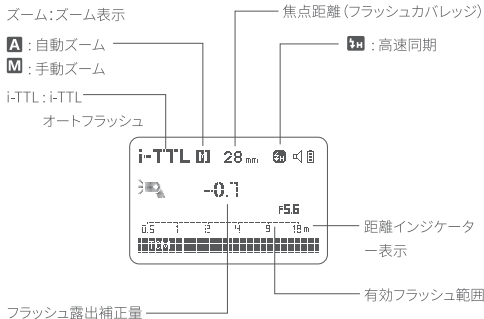


●コントロールパネル

- 11.<MENU>フラッシュメニューボタン
- 12.<Z>ワイヤレスモードボタン
- 13.調整ノブ
- 14.設定ボタン
- 15.ON / OFF電源スイッチ
- 16.<L>トライアルフラッシュボタン
- 17.<ZOOM>焦点距離設定
- 18.<MODE>フラッシュモードの選択
- 19.<L>ロック設定
- 20.<+/->電力調整
- 21.機能ボタン1
- 22.機能ボタン2
- 23.機能ボタン3
- 24.機能ボタン4

●液晶ディスプレイ

(1) i-TTLオートフラッシュ

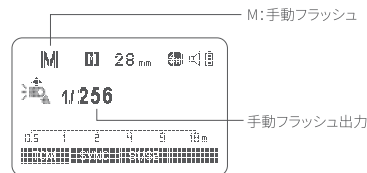


●ディスプレイには、現在のアプリケーションの設定のみが表示されます。

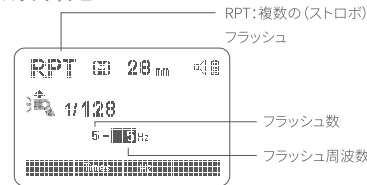
- 機能ボタン1-機能ボタン4の上に表示される機能<SYNG>および<M/A/B/C>は、設定された状態に応じて変化します。
- ボタンやダイヤルが操作されると、液晶ディスプレイが点灯します。

機能ボタン1の上にてTCMが表示されると、機能ボタン1を短く押すことにより、i-TTLモードとMモードとの遷移を実現することができます。

(2) Mマニュアルフラッシュ



(3) RPTマルチストロボフラッシュ

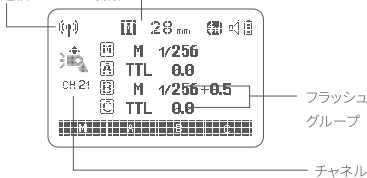


(4) ワイヤレス送信撮影

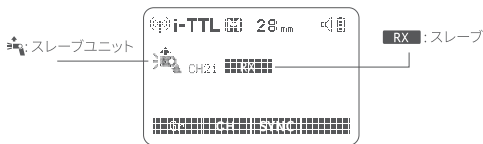
●メインコントロールユニット

フラッシュモード

(P): ワイヤレス送信ワイヤレス撮影

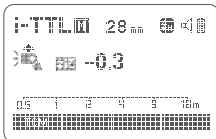


●スリーブユニット

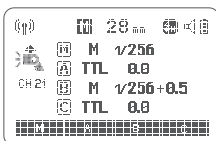


●3つのモードで異なるLCD画面表示

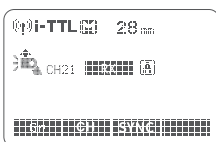
●セッティングモード



●2.4Gワイヤレス伝送: マスターとして

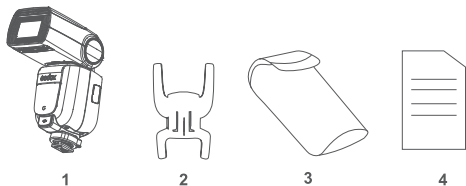


●2.4Gワイヤレス伝送: 従属として



●標準付属品

1.フラッシュ 2.ミニチュアベース 3.保護バッグ 4.取扱説明書

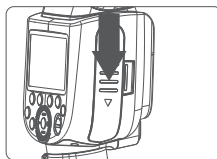


●オプション付属品

XproC、X2T-C、X1C TTLフラッシュトリガーなど、当社の写真用付属品と併用して、最高の撮影効果と体験を得ることができます。

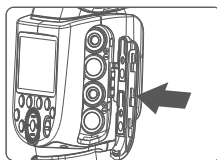


●電池の着脱



1 電池を分解します。

- 電池タンクの指示方向に沿って、あなたの両手で電池タンクを押すと、電池タンクを開け、電池を取り出すことができます。

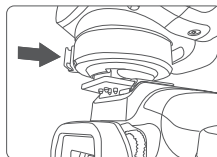


2 電池を取り付けます。

- 電池タンクを開けた後、電池の正負極を見分け、4本の電池を1つずつ電池タンクに入れ、最後に電池タンクを覆い、上に突き上げればいけます。

ヒント: 別に神牛外接フラッシュ電源ボックスPB 960を購入し、TT 685 IINを組み合わせて使用することで、フラッシュ回数を大幅に増加させ、回生時間を短縮し、航続能力を向上させることができます。

フラッシュの着脱



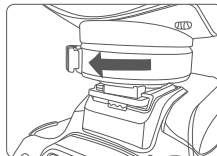
1 フラッシュを取り付けます。

- フラッシュ回転ボタンを回して左に行けば、カメラのホットブーツを全部挿入することができます。



2 フラッシュをしっかり締めます。

- フラッシュ回転ボタンを右に回すと、ホットブーツをロックすることができます。



3 フラッシュを取り外します。

- 回転ボタンのボタンを押して左に回転すると、ホットブーツのロックが解除されます。

電源管理

*ON/OFF電源スイッチは、製品のオンおよびオフを制御し、長時間使用しない場合は電源をオフにしてください。本製品は電源自動オフ機能が設計されています。マスターユニットとして長時間(約90秒)誰も操作していない場合には、フラッシュが自動的にオフされ、シャッターボタンまたは筐体の任意のキーを半押しして起動され、スリーブユニットとして60分(または30分)に何の操作もない場合には、フラッシュランプがスリーブ状態になり、本体の任意のキーを押して起動することができます。

C.Fn 本体から離れて使用時には、カスタム機能により「自動電源オフ」を無効にすることをお勧めします。

C.Fn 「スレープ自動電源オフタイム」は、出荷時にデフォルトで60分に設定されており、30分をカスタマイズして選択することもできます。

発光モード-- i-TTL自動発光モード

このフラッシュはi-TTL自動発光、M手動発光とRPTストロボ発光という三つのモードを有しています。i-TTLモードで、カメラの測光システムは被写体から反射して返ってきた発光照明を計測し、自動に発光出力を調整し、被写体と背景を均一に露出させます。露出補正、ハイスピードシンクロ、第2幕シャッターシンクロの機能をサポートします。

<MODE>モード選択ボタンを押して、三つの発光モードは順次に液晶ディスプレイに表示されます。

i-TTLモード

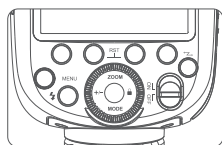
<MODE>モード選択ボタンを押して、フラッシュを<i-TTL>に設定すると、フラッシュはi-TTLモードに入ります。

- カメラのシャッターボタンを半押ししてフォーカシングを行い、絞り値と有効発光範囲はディスプレイに表示されます。
- シャッター開放前の瞬間で一回の予備発光を行ない、フラッシュはカメラからの情報をレシーブしてからメイン発光を行います。

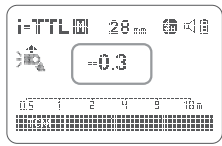
フラッシュ露出補正

本フラッシュは-3〜+3段の間で、1/3段刻みにフラッシュ露出補正を調整します。環境のニーズでTTLシステムを微調整を行う必要がある場合、この機能は非常に便利です。

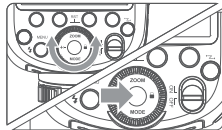
フラッシュ露出補正の設定:



1 <+/->ボタンを押して、フラッシュ露出補正量はハイライト表示されます。



2 フラッシュ露出補正量の設定
●調整つまみを回し、露出補正量を設定します。
●「0.3」は1/3段を示し、「0.7」は2/3段を示します。
●フラッシュ露出補正を取り消す必要がある場合、フラッシュ露出補正量を「+0」に設定します。



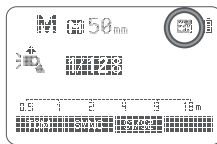
3 設定ボタンを押して、フラッシュ露出補正を確認します。

ハイスピードシンクロ

ハイスピードシンクロ (FP発光) を使用すると、あらゆるシャッター速度でシンクロにフラッシュを使用できます。ハイスピードシンクロ発光は絞り優先を使って肖像を充填発光を行なう時に特に便利です。

ハイスピードシンクロ<H>を選択します。

e1 閃光同步速度	
1/320秒(自動FP)	
1/250秒(自動FP)	OK
1/250秒	
1/200秒	
1/160秒	
1/125秒	
1/100秒	
1/80秒	



1 NIKONカメラ本体の設定において、フラッシュシンクロ速度を1/320秒(オートFP)または1/250秒(オートFP)に設定し、シャッターボタンを半押しし、フラッシュディスプレイにハイスピードシンクロ<H>アイコンが表示されます。この時に、フラッシュハイスピードシンクロ機能がスタートします。

2 カメラのダイヤルを回し、シャッター速度を1/250秒またはより高いシャッター速度に設定します。

3 現在、FPハイスピードシンクロ機能を使っているか否かを確認する必要があります。カメラのファインダーを通じてシャッター速度をチェックするだけで判断できます。シャッター速度は1/250秒またはより高い場合、ハイスピードシンクロ機能が起動されていることを示します。

● NIKONカメラ本体の設定において、フラッシュシンクロ速度を1/320秒(オートFP)または1/250秒(オートFP)に設定した場合、実際のシャッター速度と関係がなく、フラッシュのディスプレイにおける<H>アイコンが表示されます。

●ハイスピードシンクロを使用する時、シャッター速度は高いほど、有効な発光範囲は小さくなります。

●NIKONカメラ本体の設定において、フラッシュシンクロ速度を非(オートFP)オプションに設定してください。シャッターを半押しする時に、フラッシュのディスプレイにおける<H>アイコンが消えます。

●ストロボ発光を設定できません。

●30回引き続きハイスピードシンクロ発光を行なった後、フラッシュの熱保護機能はイネールになる可能性があります。

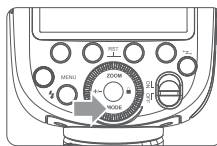
第二幕シャッターシンクロ

スロースピードシャッターを使用すると、被写体の後ろに1本の光線軌跡を作成できます。シャッターシャットダウン前の瞬間にフラッシュが発光します。

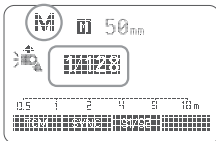
●カメラ本体の設定において、REAR発光方式を選択すると、後幕シンクロを実現できます。

フラッシュモード:M手動フラッシュ

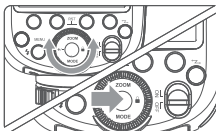
フラッシュ出力は、1/256電力から1/1全電力までの1/10速分で設定できます。正確なフラッシュ露光を得るためには、手持ちのフラッシュ測光テーブルを用いて必要なフラッシュ出力を決定してください。



1 <MODE>モード選択ボタンを押すと、画面に<M>が表示されます。



2 調整つまみを回転させてフラッシュ出力を設定します。



3 設定ボタンを押して、フラッシュ露出補償を決定します。

S1光制御ユニット設定

M手動点滅モードでは、S1機能を用いることができ、フラッシュはサブライトとして使用可能であり、多様な照明効果を創出し、手動点滅環境に適しています。これは主フラッシュの1回目のフラッシュと同期して点滅をトリガし、効果はワイヤレスフラッシュ器の使用と一致します。

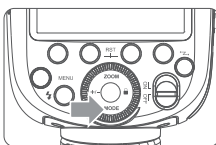
S2光制御ユニット設定

M手動点滅モードではS2機能を用いることができ、フラッシュはサブライトとして使用可能であり、TTL点滅環境に適しています。プリフラッシュ防止機能を持ち、1次プリフラッシュ機能付きカメラを用いて光制御で同期撮影を実現することができます。これは、主フラッシュの2回目のフラッシュと同期してフラッシュ、すなわち2次光制御フラッシュをトリガします。

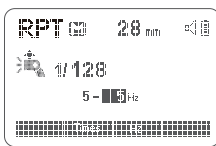
● S1/S2光制御フラッシュモードは、Mモードでのみサポートされます。

フラッシュモード：RPTストロボフラッシュ

フラッシュフラッシュを使って、一連の速いフラッシュを発することができます。1枚の写真上で移動物体の複数の画像を撮影することができます。フラッシュ周波数(毎秒のフラッシュ回数、Hzで表す)、フラッシュ回数、フラッシュ出力を設定することができます。



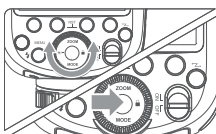
1 <MODE>フラッシュモード選択ボタンを押すと、画面に<MULTI>が表示されます。



2 フラッシュ周波数とフラッシュ回数を設定します。

●機能ボタン2<Times>を押してフラッシュ回数を選択し、調節つまみを回転させて数字を設定します。

●機能ボタン3<Hz>を押してフラッシュ周波数を選択し、調節つまみを回転させて数字を設定します。



3 調整つまみを回転させてフラッシュ出力を設定します。設定ボタンを押して確定すると、すべての設定が表示されます。

シャッター速度を計算します

ストロボフラッシュ中、シャッターはフラッシュ停止まで開状態を維持すべきです。次式を用いてシャッター速度を計算し、カメラで設定します。

フラッシュ回数/フラッシュ周波数=シャッター速度

例えば、フラッシュ回数が10、フラッシュ周波数が5 Hz、シャッター速度が少なくとも2秒です。

▲ フラッシュランプヘッドが過熱して破損することを防ぐために、連続10回以上のストロボフラッシュ連写は行わないようにしてください。フラッシュ10回後、フラッシュを少なくとも15分間冷やしてください。連続10回以上のストロボフラッシュ連写を実行しようとする、フラッシュランプヘッドの過熱を防止するために、フラッシュが自動的に停止する可能性があります。もしこのような状況が発生したら、フラッシュを少なくとも15分間冷却させてください。

● テカリの強い被写体は、暗い背景の前にストロボフラッシュを用いた方が有効です。

● 三脚とリモコンスイッチの使用をお勧めします。

● フラッシュ出力が1/1と1/2の場合はストロボフラッシュを設定できません。

● ストロボフラッシュの場合には「buLb」を用いることも可能です。

● フラッシュ回数が-である場合、フラッシュは、シャッターまたはバッテリーが枯渇するまで連続的にフラッシュされます。以下の表に示すように、点滅回数が制限されます。

最大ストロボ回数

Hz フラッシュ出力	1	2	3	4	5	6-7	8-9
1/4	8	6	4	3	3	2	2
1/8	14	14	12	10	8	6	5
1/16	30	30	30	20	20	20	10
1/32	60	60	60	50	50	40	30
1/64	90	90	90	80	80	70	60
1/128	90	90	90	90	90	90	80
1/256	90	90	90	90	90	90	80

Hz フラッシュ出力	10	20-50	60-100
1/4	2	2	2
1/8	4	4	4
1/16	8	8	8
1/32	20	16	12
1/64	50	30	20
1/128	70	40	40
1/256	70	40	40

ワイヤスフラッシュ撮影:ワイヤレス(2.4 G)伝送

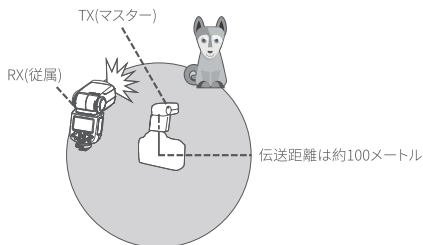
- カメラに搭載されたTT 685IINをマスターユニット、ワイヤレス制御されたTT 685 IINをスレーブユニットと呼びます。
 - スレーブユニットとして設定されたTT 685IIN は、フラッシュ信号送信器X1 T-C(別購入)でワイヤレス制御されてもよいです。マスターユニットの機能を設定する詳細な説明については、信号送信器の使用説明書を参照されたいです。

ワイヤレスクリエイティブシステムは五つのスレーブユニットグループの設定をサポートし、TTL自動発光を実現します。TTL自動発光を通じて手軽に各種照明効果を獲得できます。

- マスターユニットによってグループ別に設定されたいずれかの TTL自動発光、手動発光とストロボ発光設定は自動にスレーブユニットに伝送されます。この故に、撮影時に、スレーブユニットを操作する必要がありません。マスターユニットで各スレーブグループをそれぞれ設定するだけで良いです。
- この製品をマスターユニットに設定する時に、i-TTL/M/RPT/OFFという四つの発光モードで作動できます。

位置および動作範囲(ワイヤスフラッシュ撮影の例)

- スレーブユニットを用いた自動フラッシュ撮影

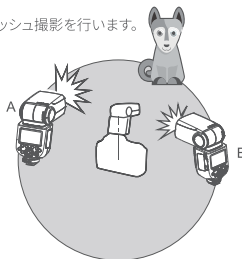


- 付属のマイクロソフトを用いてスレーブユニットを位置決めします。
 - 撮影を始める前にテストフラッシュと試写を行ってください。
 - スレーブユニットの位置、周囲環境、天気状況などの影響を受け、転送距離が短い可能性があります。

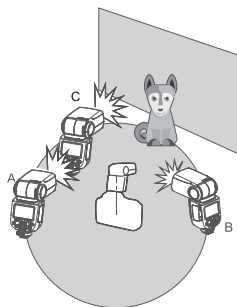
ワイヤス多重フラッシュ撮影

スレーブユニットを2つまたは3つのグループに分割し、フラッシュ光比(倍率)を変化させながらE-TTL自動フラッシュ撮影を行うことができます。また、各フラッシュグループ(最大4グループ)に設定して異なるフラッシュモードで撮影することができます。

- 2つの係り受けグループで自動フラッシュ撮影を行います。



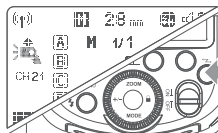
- 3つの従属グループで自動フラッシュ撮影を行います。



1、ワイヤス設定

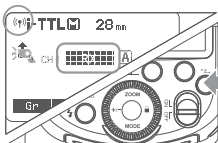
通常のフラッシュとワイヤスフラッシュの間で切り替えることができます。通常のフラッシュについては、必ずワイヤス設定を「オフ」に設定してください。

マスターユニット設定



<Fn>ワイヤス設定ボタンを押下すると、<Fn>が表示されます。

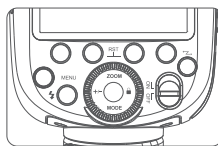
従属ユニット設定



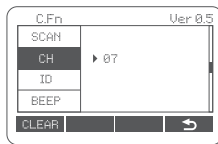
<Fn>ワイヤス設定ボタンを押下すると、<Fn>および<RX>が表示されます。

2、通信チャンネルを設定します

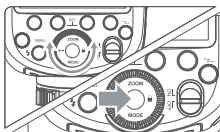
撮影現場で1つ以上のワイヤスフラッシュシステムであれば、通信チャンネルを変更することで信号干渉を防止することができます。保証マスターユニットとスレーブユニットは同じチャンネル番号に設定すればよいです。



1 <MENU>メニューキーを押してカスタムCH設定に入ります。



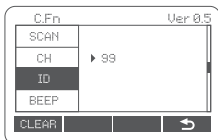
2 カスタマイズでは<CH>では、回転調節つまみが1から32までチャンネルを選択します。



3 設定ボタンを押して確認します。

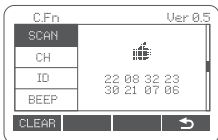
3、ワイヤレスID設定

信号干渉を回避するためには、ワイヤレス通信チャンネルの変更に加えて、ワイヤレスIDを変更することにより干渉を防止することができ、マスター部とスレーブ部と同じチャンネルおよびワイヤレスIDに設定すればよいです。<MENU>メニューキーを短く押してC.Fn IDに入り、01-99のうち任意1数ワイヤレスIDを選択して開き、OFFワイヤレスIDを選択してオフします。



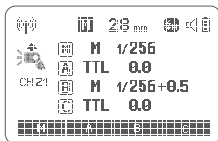
4、空きチャンネル設定をスキャンします

他の人が同じチャンネルを使用して干渉されることを避けるために、カスタマイズメニューに入って(SCAN)のオプションを見つけるスキャンアイドルチャンネル機能を用いることができ、STARTに設定した場合には1%から100%のスキャンが表示され、スキャン完了後に8組のチャンネル空きチャンネルが現れます。



5、i-TTL: 全自動ワイヤレスフラッシュ撮影

スレーブユニットを用いた自動フラッシュ撮影



1 マスターユニットを設定します。
●カメラに搭載されたTT 685 IINをマスターユニットとします。
M/A/B/CはいずれもそれぞれTTLを設定できます。

2 スレーブユニットを設定します。
●ワイヤレス制御されるTT 685 IINをスレーブユニットとします。
●A/B/C/D/Eから選択できます。

3 伝送チャンネルをチェックします
●マスターユニットとスレーブユニットのチャンネルを一致させます。



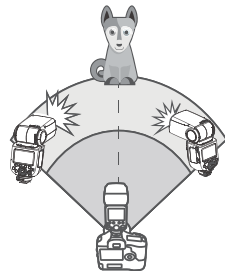
4 カメラとフラッシュの配置。
●カメラとフラッシュを示された範囲内に配置します。

5 フラッシュは準備に完成しているか否かを確認します。
●マスターフラッシュ準備済みインジケーターは点灯しているか否かを確認します。

6 操作のチェック。
●マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押します。
●スレーブユニットは発光します。スレーブユニットは発光しないと、操作範囲内にあるか否かを確認します。

複数のスレーブユニットを用いた自動フラッシュ撮影

より大きなフラッシュ出力が必要である場合、または照明をより容易に行いたい場合には、スレーブユニットの数を増加させ、単一のフラッシュユニットとして使用することができます。



スレーブユニットを追加するには、「1つのスレーブユニットを用いた自動フラッシュ撮影」と同様のステップを用いて、任意のフラッシュグループ(A/B/C/D/E)を設定することができます。

スレーブユニットの数が増加した場合やマスターフラッシュフラッシュがONに設定されている場合には、全てのフラッシュが同じフラッシュでフラッシュを出力し、総フラッシュ出力が標準露光に達することを保証する自動制御が行われます。

- スレーブユニットの自動オフ電源が有効である場合、マスターユニットのテストフラッシュボタンを押してスレーブユニットをオンにします。カメラの測光タイミングで動作している間、テストフラッシュはできませんのでご注意ください。
- スレーブユニットの自動電源オフが発効するまでの時間を変更することができます。
- オートフォーカス補助送信器は、スレーブユニットの電源戻しが完了したときに点滅しないように設定することができる。

全自動ワイヤレスフラッシュを使います

マスターユニットに設定されたフラッシュ露出補償や他の設定もスレーブユニットに自動的に設定されます。スレーブユニットを操作する必要はありません。ワイヤレスフラッシュ撮影は、通常のフラッシュ撮影と同様の方法で以下の設定で行うことができます。

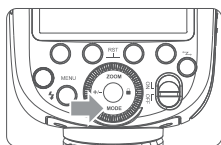
●フラッシュ露出補償

マスターユニットについて

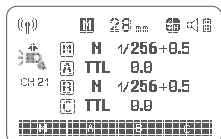
2つ以上のマスターユニットを使用することができます。マスターユニットを搭載したカメラを複数台用意することにより、同じ照明(スレーブユニット)を保持している間にカメラを交換して撮影することができます。

6.M: 手動ワイレスフラッシュ撮影

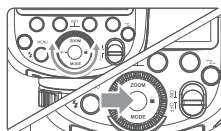
手動フラッシュを用いたワイレス(多重フラッシュ)撮影は、スレーブユニット(フラッシュグループ)ごとに異なるフラッシュ出力を設定して撮影することができます。マスター部にはすべてのパラメータを設定します。



1 フラッシュモードを<M>とします。



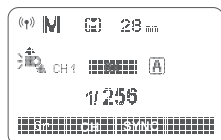
2 フラッシュ出力を設定します。
●機能ボタン1/2/3/4<M/A/B/C>を押し、回転調整つまみはフラッシュ群にフラッシュ出力を設定し、設定ボタンを押して決定します。



3 写真を撮ります
●各グループは設定されたフラッシュ光でフラッシュを比較します。

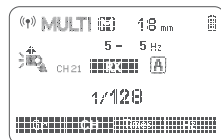
<M>フラッシュモードを設定します

スレーブユニットを直接操作して手動フラッシュまたはストロボフラッシュを手動設定することができます。



1 スレーブユニットを設定します。
2 <M>フラッシュモードを設定します。
●<MODE>モード選択ボタンを押下すると、<M>が画面に表示されます。
●手動フラッシュ出力を設定します。

7.RPT: 手動ワイレスフラッシュ撮影



1 <RPT>ストロボモードを設定します。
●<MODE>モード選択ボタンを押して画面に<RPT>を表示させます。
●ストロボフラッシュ設定を設定します。



神牛2.4 Gワイレス漏れ原因と解決策

1、外部環境2.4 G信号干渉(例えば、ワイレス基地局、2.4 Gwifiルーター、Bluetoothデバイスなど)。

→フラッシュ器のチャンネルCH設定(アドバイス+10)を調節して、干渉のないチャンネルを見つけて動作するか、または動作時に他の2.4 Gデバイスをオフにしてください。

2、フラッシュが再生されたか、または再生速度が連写速度についているかどうかを確認してください(フラッシュレディランプが点灯しています)、過熱保護や他の異常状態にはありません。

→フラッシュのギアを下げてください。TTLモードであればMモードに変更してみてください。(TTLモードではプリフラッシュが1回必要)。

3、フラッシュ器とフラッシュの距離が近すぎる(距離<0.5 m)。

→フラッシュで「近距離ワイレスモード」をオンにしてください:

X1シリーズ:点滅ボタンを押して放さず、ランプが2回点滅するまで電源を入れます。Xproシリーズ:C.Fn-DISTを0-30 m設定します。

4、フラッシュ装置および受信側装置が低電力状態にあるか否か。

→電池を交換してください(フラッシュ電池は1.5 V使い捨てアルカリ電池をお勧めします)。

その他の応用

同期ジャックトリガ

同期ジャックサイズは中2.5 mmであり、ここでは同期線やトリガプラグを挿入してフラッシュを同期フラッシュすることができます。

自動補助焦点灯

低輝度または低コントラストの撮影場合には、フラッシュ内蔵のオートフォーカス補助ランプがオンされ、オートフォーカスを容易にする。

合焦が困難な場合には、赤色補助焦点ランプが点灯し、合焦が正確になると、補助焦点灯が自動的に消灯します。

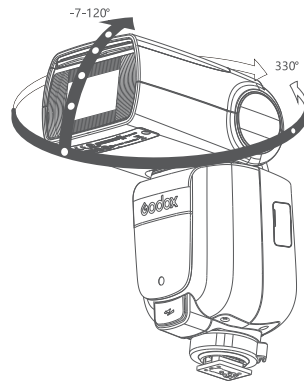
自動補助合焦機能をオフにしたい場合には、C.Fnに「AF」から「OFF」を設定します。

●ユーザが使用する際に、補助フォーカスランプが点灯していないことが発見されると、カメラが正確な合焦状態になっているためです。

位置	有効範囲
中央	0.6~10 m/2.0~32.8フィート
エッジ	0.6~5 m/2.0~16.4フィート

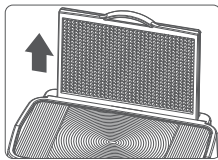
反射フラッシュ

フラッシュランプヘッドを壁や天井に向けることにより、被写体を照らす前の壁面でフラッシュ光が反射されます。これにより、被写体の背後の陰影を軽減し、より自然な撮影効果を得ることができます。これを反射フラッシュと呼びます。フラッシュランプヘッドを回転させて反射方向を設定します。



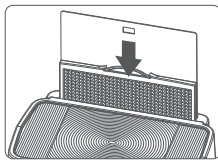
- 壁や天井が遠すぎると、反射フラッシュが弱すぎて露出不足になる可能性があります。
- 壁や天井は平坦で白く、効率的な反射に役立つはずですが、反射面が白色でなければ、写真に偏色が見えます。

目ライトを作ります



目ライトの作成にはアイパネルを用いて、被写体の目に目ライトを作成して顔の表情をより生き生きとさせることができます。

1. フラッシュランプヘッドを90°上方に回転させます。
2. 広角散板を引き出しながらアイパネルをポップアップします。
3. 広角散板を押し込みます。
 - 広角散板のみを押し込みます。
 - 反射フラッシュ中と同様の手順で行います。

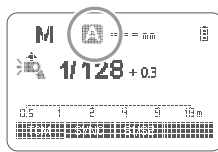


注意:

- フラッシュランプヘッドを前に指して後ろに90度回転させてください。フラッシュランプのヘッドを左右に回転させると目ライトは発生しません。
- 最も良いアイコンタクト効果を得るためには、被写体はカメラ1.5 m/4.9フィート以内であってはなりません。

ZOOM: フラッシュカバー範囲を設定します

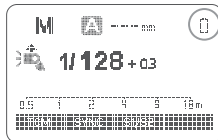
このフラッシュにはオートズームと手動ズームの2つのズーム方式があります。20~200 mmのレンズ焦点距離に適合するようにフラッシュカバー範囲を設定することができます。オートズーム時に、カメラズームレンズの変化に応じて焦点距離が変化し、最適なフラッシュ効果を提供します。



動ズームの場合は、<ZOOM>ズームボタンを押します。

- 調節つまみを回してフラッシュカバー範囲を変更します。
- 表示<A>状態では、フラッシュカバー範囲を自動的に設定します。

- フラッシュカバー範囲を手動で設定し、そのカバーレンズの焦点距離を確保すると、写真に影のエッジは現れません。



電池量が低い場合は、電池記号が点滅しますので、電池を交換してください。

C.Fn: カスタム機能を設定します


以下のグラフィックメニュー欄と照合して、カスタム機能を用いて設定を完了してください。

カスタム機能記号	機能	シンボルを設定します	設定と手順
m/ft	距離ランプ表示	m	メートル
		ft	フィート
AF	オートフォーカス補助 ライトフラッシュ	ON	起動
		OFF	閉鎖
STBY	自動スリープ設定	ON	起動
		OFF	閉鎖
RX STBY	スリープユニット自動 電源オフタイマー	60min	60分
		30min	30分
SCAN	無料チャンネルスキャン	OFF	閉鎖
		START	無料チャンネルを検索
CH	チャンネル設定	01~32	32チャンネル選択
ID	ワイヤレスID	OFF	閉鎖
		01~99	01~99の任意の番号を選択して開く
BEEP	ブザー	ON	起動
		OFF	閉鎖
LIGHT	バックライト点灯時間	12sec	12秒後に自動的にオフ
		OFF	消火し続ける
		ON	常に点灯
LCD	LCDコントラスト	-3~+3	7レベル
TX DIST	トリガー距離	1-100m	1-100m点滅
		0-30m	0-30m点滅

1. MENUボタンを押すとC.Fnメニューが表示されます。右上の「Ver x.x」はソフトウェアバージョン番号を表します。
2. カスタム機能記号を選択します。回転調節つまみはカスタム機能記号を設定します。
3. 設定を変更します。
 - 設定ボタンを押すと、カスタム機能番号が点滅します。
 - 回転調節つまみは希望の番号を設定し、設定ボタンを押して決定します。
 - カスタマイズ機能を設定して<MENU>ボタンを押すと、カメラが撮影できます。
4. C.Fn状態において、「OK」が出現するまで「Clear」ボタンを2秒長く押すことは、C.Fnのパラメータをリセットすることを示します。

保護機能

1. 熱保護

- フラッシュランプヘッドが過熱して破損することを防ぐために、1/1パワーで40回を超える高速連続フラッシュは行わないようにしてください。40回の連続フラッシュ後、フラッシュを少なくとも10分間冷却しなければなりません。
- 40回以上の連続フラッシュを行った後すぐに複数回のフラッシュを継続すると、内部の過熱防止機能が活性化される可能性があり、このような現象が発生した場合、フラッシュを約10分間冷却させると、フラッシュが正常に戻ります。
- ホットガードが起動されると、ディスプレイ上の記号が表示されます。

熱保護機能を活性化する連続フラッシュ回数：

サイズ サイズ	ZOOM (mm)	20	24	28	35	50	70	80	105	135	200
1/1		40	50	50	60	60	70	70	80	80	80
1/2		50	60	60	75	75	100	100	100	100	100
1/4		100	100	100	100	120	150	150	150	150	150
1/8		200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
1/16		300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
1/32		500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
1/64		1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1/128		2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000
1/256		2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000

高速同期モードにおいて、熱保護機能を活性化する連続フラッシュ回数：

サイズ ギア	ZOOM (mm)	20 - 200
1/1		30
1/2		30
1/4		34
1/8		40
1/16		50
1/32		50
1/64		60
1/128		60

2. その他の保護

- 設備の安全な作業を保证するために、システムは常に予防保護を行い、以下の提示記号を参考にします。

LCD表示	警告内容
E1	フラッシュ回生システムに問題が発生して、フラッシュを戻すことができません。 再電源を入れてください。解決できない場合は修理してください。
E2	設備内の温度が高すぎますので、フラッシュを10分止めてください。
E3	フラッシュランプの両端の電圧が高すぎますので、修理してください。
E9	ファームウェアのアップグレードが間違っていますので、正しいファームウェアのアップグレードを行ってください。

製品パラメータ

モデル	TT685IIN
対応カメラ	Nikonカメラ(i-TTL自動発光)
ガイドナンバー (1/1ギア、 焦点距離200mm)	GN60 (m ISO100)
フラッシュカバレッジ	20~200mm

製品パラメータ

	<ul style="list-style-type: none"> ・オートズーム (レンズの焦点距離や画像サイズに合わせてフラッシュのカバー範囲を自動設定) ・手動ズーム、・フラッシュヘッド回転/傾斜、水平 0~330° 縦-7~120 (バウンスフラッシュ)
フラッシュの持続時間。	1/300秒から1/2000秒
露出制御	
ばく露制御システム	i-TTLオートフラッシュ、マニュアルフラッシュ
フラッシュ露出補正 (FEC)	手動、フラッシュブラケット：±3ステップの間で1/3ステップの増分で調整
	(手動フラッシュ露出補正とフラッシュブラケットを組み合わせで使用)
シンクロ方式	ハイスピードシンクロ(最高1/8000秒)、 先幕シンクロ、後幕シンクロ
ストロボフラッシュ	利用可能 (回数：90回；100Hz)
ワイヤレスフラッシュ (ラジオ2.4G送信)	
ワイヤレス機能	マスターユニット、スレーブユニット、オフ
マスターユニットグループ	M, A, B, C
制御可能なスレーブユニットグループ	A, B, C, D, E (グループEはXシリーズフラッシュトリガーで制御)
送信範囲 (概算)	100メートル
チャネル	32グループ：01~32
ID	01~99
オートフォーカス補助ライト	
有効範囲 (約)	センター：0.6-10メートル/エッジ：0.6-5メートル
電源	
単三電池	Ni-MH電池 (推奨) またはLR6型アルカリ乾電池* 4
コールドバック時間	0.1-2.6秒
フルパワーでのフラッシュの数	約290回 (ニッケル水素二次電池)
省エネ	無人操作で約90秒後にフラッシュの電源が自動オフ スレーブユニットとして設定すると、60分間スリープ状態
作業温度	-10°C-50°C
同期トリガーモード	ホットシュー、2.5mm同期ライン
サイズ	
音量	64 * 76 * 190 mm
正味重量 (バッテリーなし)	405g
重量 (バッテリーを含む)	489g

故障排除ガイド

問題が発生した場合は、この障害排除ガイドを参照してください。

フラッシュが点滅しません。

- フラッシュはカメラにしっかりと取り付けられていません。

→フラッシュの固定台をカメラにしっかりと取り付ける。

- フラッシュとカメラの電子接点が汚れています。

電源が自動的にオフになります。

- ランプがマスターユニットである場合には、90秒の無操作後、自動電源オフ機能が有効となります。

→シャッターボタンまたは本体の任意のボタンを半押しして起動します。

- スレープとして60分(または30分選択)で何の操作もない場合、フラッシュランプはスリープ状態に入ります。

→本体の任意のボタンで起動することができます。

オートズームは作動しません。

- フラッシュはカメラにしっかり取り付けられていません。

→フラッシュの固定台をカメラにしっかり取り付けます。

フラッシュ露出が不足したり過剰になったりします。

- 高速同期を使用します。

→高速同期を用いると、有効な点滅範囲が小さくなります。被写体が表示の有効フラッシュ範囲内にあることを確保します。

- フラッシュは手動露光モードを使います。

-i-TTLモードに変更するか、フラッシュ出力電力設定を変更します。

写真に暗角が現れたり、被写体が局所的にしか照らすことができません。

- カメラレンズの焦点距離はフラッシュのカバー範囲を超えています。

→フラッシュの現在のカバー焦点距離をチェックしてください。本製品のランプズーム範囲は中画幅システムの20～200 mmです。

ファームウェアのアップグレード

- 本製品のUSBインターフェースはType-Cインターフェースですので、Type-C USBラインを使用してください。

- 製品アップグレードファームウェアにはGodox G 3プログラムソフトウェアサポートが必要です。ファームウェアをアップグレードする前に「Godox G 3ファームウェアアップグレードソフトウェア」をダウンロードして対応するファームウェアファイルを選択してください。

- 製品がファームウェアのアップグレードを行っていますので、説明書は最新の電子版を基準にしてください。

対応カメラリスト

本製品は下記のNikonシリーズのカメラタイプに対応できます。

D800	D4	D780	D610	D500	Z72	D300S
D750	D5100	D5200	D3300	D200	D60	D5

- 注:
1. このリストに記載されたのはテストされたカメラのタイプであり、あらゆるNikonシリーズのカメラを含んだものではありません。他のカメラのタイプについて、ユーザーは自分でテストしてください。
 2. 弊社は予告なしにこのリストに記載された内容を変更することがあります。

メンテナンス

- フラッシュは作務中に異常が発見された場合は、すぐに電源を切って原因を究明しなければなりません。

- ライト本体は振動を避けて、普段は表面のほこり除去に気をつけなければなりません。

- ライト本体の少し発熱は正常な現象であり、特に必要がない時、連続的にフラッシュを引いてはいけません。

- フラッシュのすべての修理はすべて当工場指定元工場部品の修理部が担当します。

- 1年間保証、消耗品、例えばランプなど、1年間保証範囲ではありません。

- このフラッシュを無断で点検した場合、フラッシュの1年保証期間をキャンセルし、修理には関連費用がかかります。

- 本品が故障したり、水に濡れたりした場合は、専門家が修理した後も継続して使用することができます。

- 技術的な変更があれば、予告なくお知らせします。

製品の修理保証

ご使用者様、本修理保証カードは修理保証の申請用の重要な証明書でございます。販売店にご協力いただき、ご購入とご保管ください。ありがとうございます。

製品情報	型号	製品のバーコード
ご使用者 情報	名前	電話番号
	連絡先	
販売店 情報	名称	
	電話番号	
	連絡先	
	販売日期	
備考欄		

本表は販売店より捺印が必要。

適用な製品

本書類は「製品修理保証情報」(後記の説明をご覧ください。)に関する製品シリーズに適用して、そのほかの本範囲に属していない製品あるいは部品(セール品、贈り物、ほかの出荷後の添付した部品等)はこの修理保証承諾に属していません。

修理保証期間

製品及び関連部品との修理保証期間は「製品修理保証情報」で実施します。修理保証期間は製品を初めて購入するときから数えて、購入日は購入するときに修理保証カードで記入された日期を基準とします。

修理保証サービスの獲得方法

修理保証サービスを要求したら、直接に製品の販売店または授權されたサービス機構と連絡できます。神牛のアフターサービスに電話をかけることもできます。我々のサービス員はサービスを手配します。修理保証を申請するときは、証明書として有効な修理保証カードを提供して修理保証が得ることができます。有効な修理保証カードを提供できないなら、我々は製品または部品が修理保証範囲に属することを確認したうえで、修理保証サービスも提供できませんが、それはわれわれの義務となりません。

修理保証に適用しない場合

もし製品は以下の状況があるなら、本書類で記入された保証とサービスに適用しません。①製品または部品は相応な修理保証期間を超えること;②正しくなく使用、メンテナンス、保管によって故障や損傷を起こすこと。例えば:不適当に連極;製品の合理的な予期の用途で使用しないこと;不適当に外部設備を挿したり抜いたりすること;落ちることや押しつぶすこと;不適当な温度、溶剤、PH、湿っぽい環境の中に置くこと;③神牛が授權されていない機構または整備員より取り付けたり、修理したり、変更したり、添付したりたり分解したりすることで起こした故障や損傷;④製品または部品のもとの標識マークが修正し変更されたり、削除されたりすること;⑤修理保証カードがないこと;⑥非合法な授權、標準街、公開されていないで発行するソフトウェアなどを使用して起こした故障や損傷;⑦不可抗力や事故で起こした故障や損傷;⑧ほかの製品自体で起こした故障や損傷ではないこと。上述の状況であれば、関連の責任者と解決策を求めてください。我々はそれに対していかなる責任を持ちません。修理保証期間外や修理保証範囲外の部品、付属品、ソフトウェアなどで使用しなくなることについて、修理保証範囲内の故障ではありません。使用中、製品の正常的な脱色、摩耗と消耗は修理保証範囲内の故障ではありません。

製品の修理保証とサービスサポートとの情報

製品の修理保証期間とサービスタイプとは「製品修理保証情報」によって実施します。

製品類別	オプションの名称	修理保証期間	修理保証サービスの類型
部品	電気回路基盤	12	顧客より修理出し
	電池	3	顧客より修理出し
	充電器、電源線、同時線などの帯電性能の部品	12	顧客より修理出し
そのほか	フラッシュチューブ、造形の電球、ケース、保護カバー、ロック装置、包装等	なし	修理保証なし

神牛製品のアフターサービス電話番号: +86-755-29609320-8062